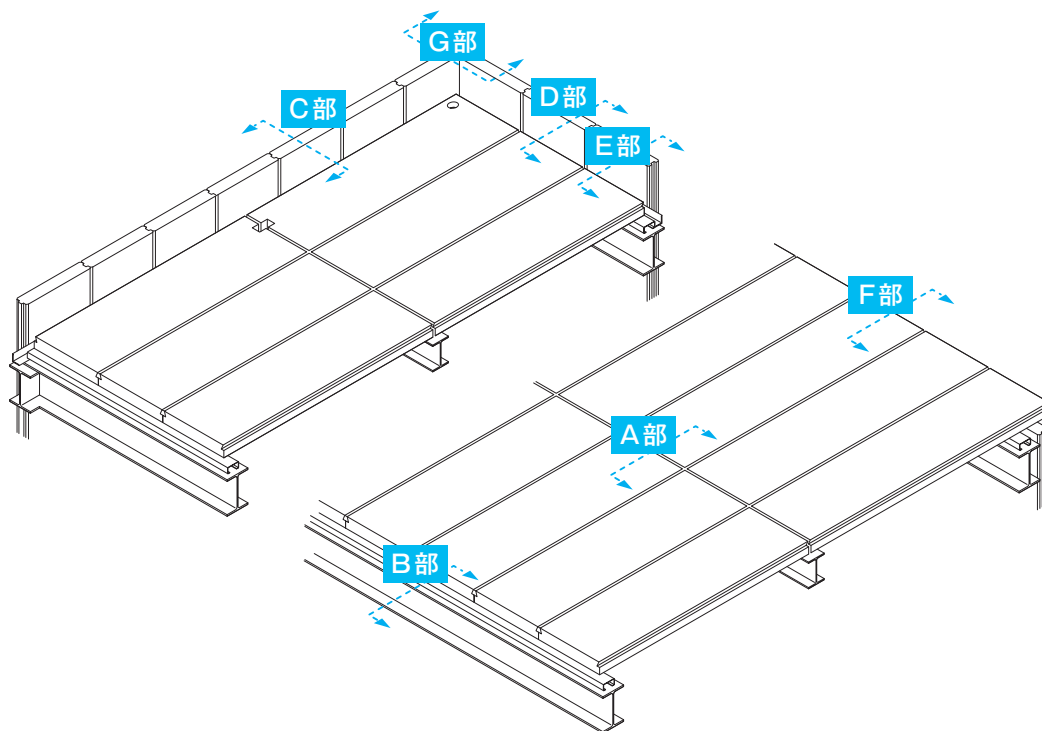


# 6 屋根標準構法

## 6-1 敷設筋構法

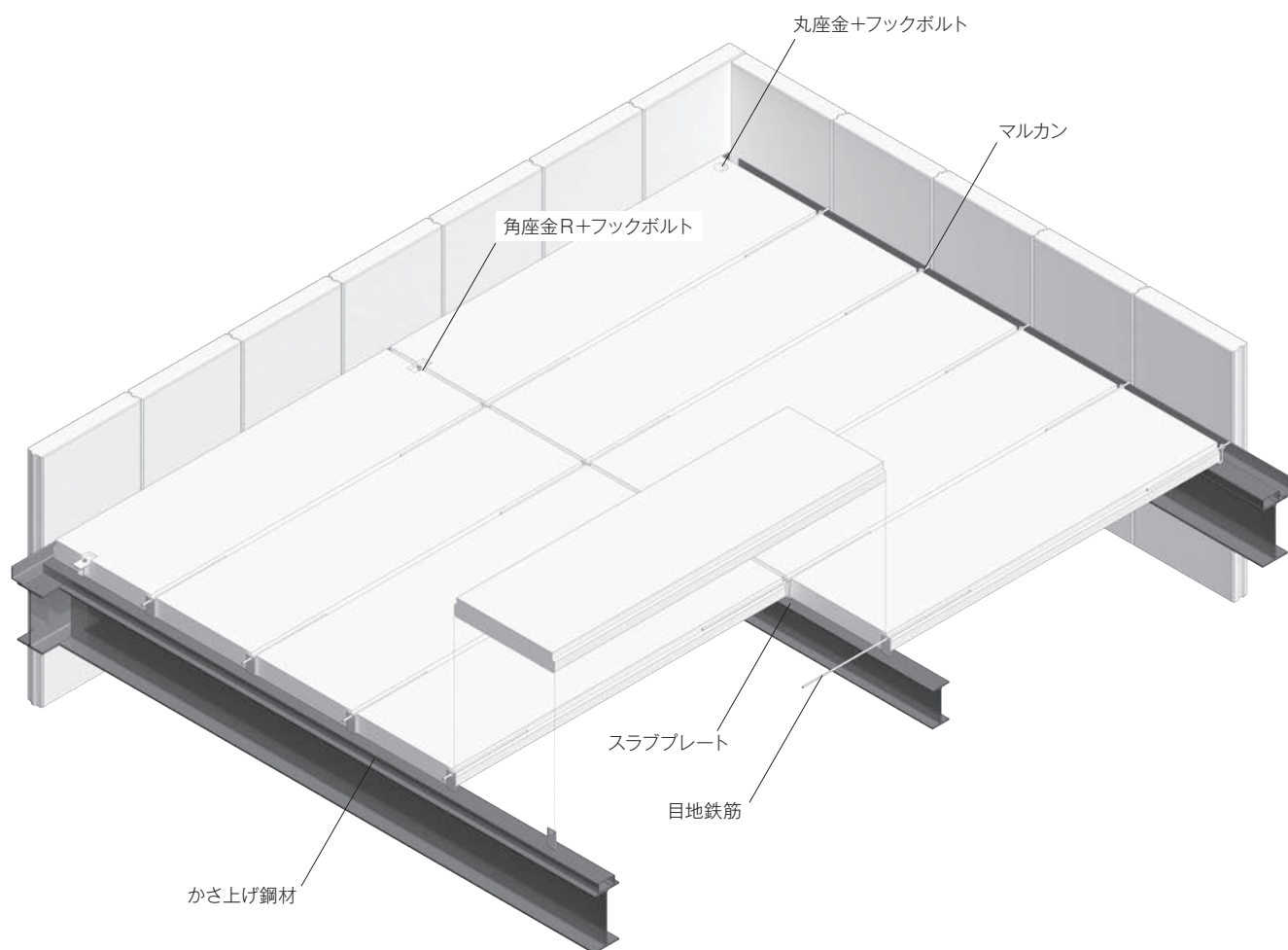
適用範囲	
設計荷重	正荷重＝積載荷重＋積雪荷重＋仕上げ荷重 ＝ 6,000N / m <sup>2</sup> 以下 負荷重＝負の風圧力 ＝ 6,000N / m <sup>2</sup> 以下
対象パネル	75mm、100mm、125mm、150mm 厚平パネル ※閉鎖型建物の勾配が 10° (1.76 / 10) 未満の屋根に適用します。 ※ 2.5/10 以上の勾配屋根は、軒先とパネル 5 ～ 8 枚ごとに、パネル両端を受けるアングルなどの滑り止め金具を支持梁に設けてください。 ※歩行用および多雪地域に使用する場合は、2,400N / m <sup>2</sup> 以上の設計荷重をご指定ください。 ※多雪地域は特定行政庁の指示に応じた積雪荷重を算定ください。

### 標準構法のキープラン

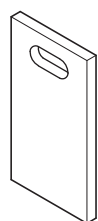


標準構法図 A ～ G の色文字は別途工事を示します。

## 取付構法の概要



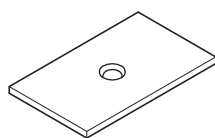
## 屋根専用取付け金具



スラブプレート



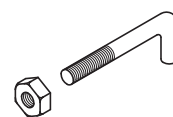
マルカン



角座金R



丸座金

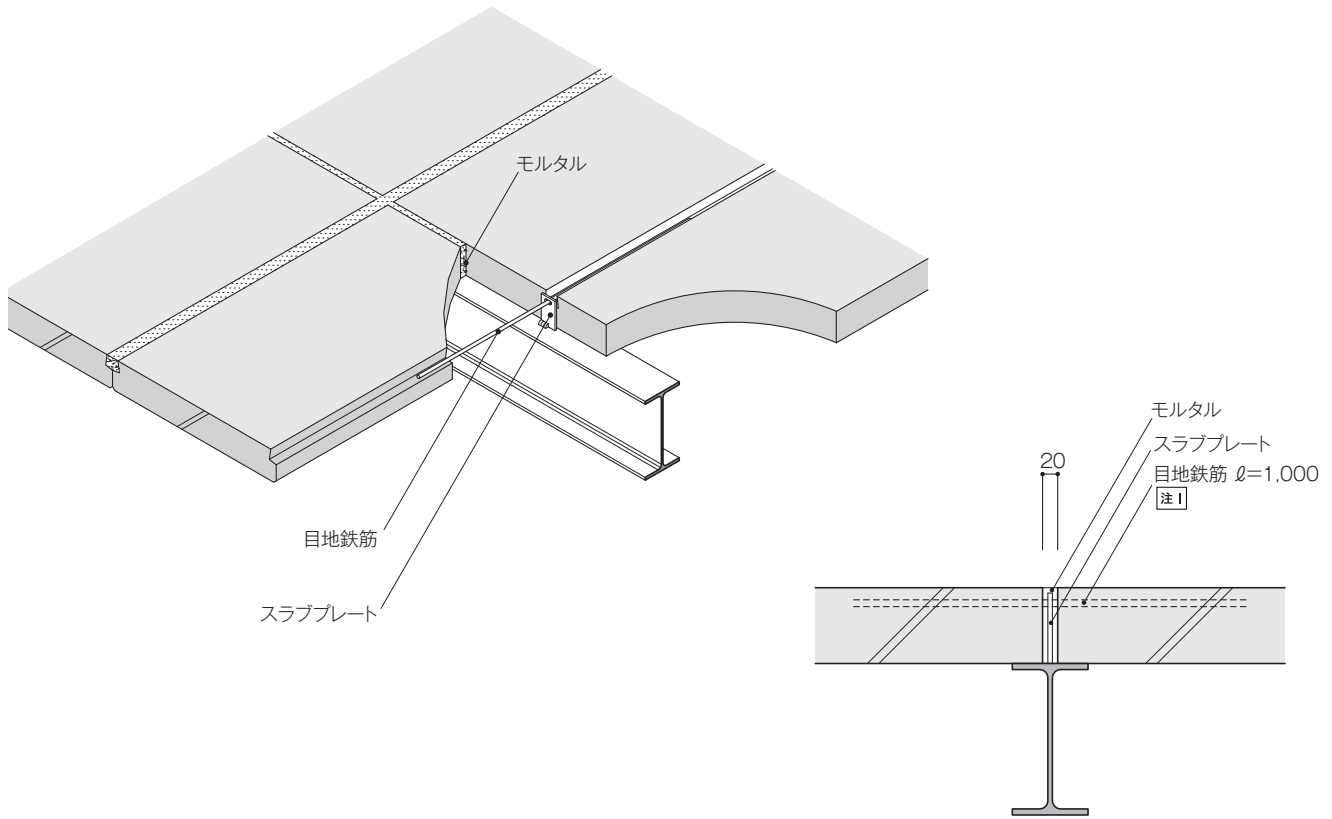


フックボルト

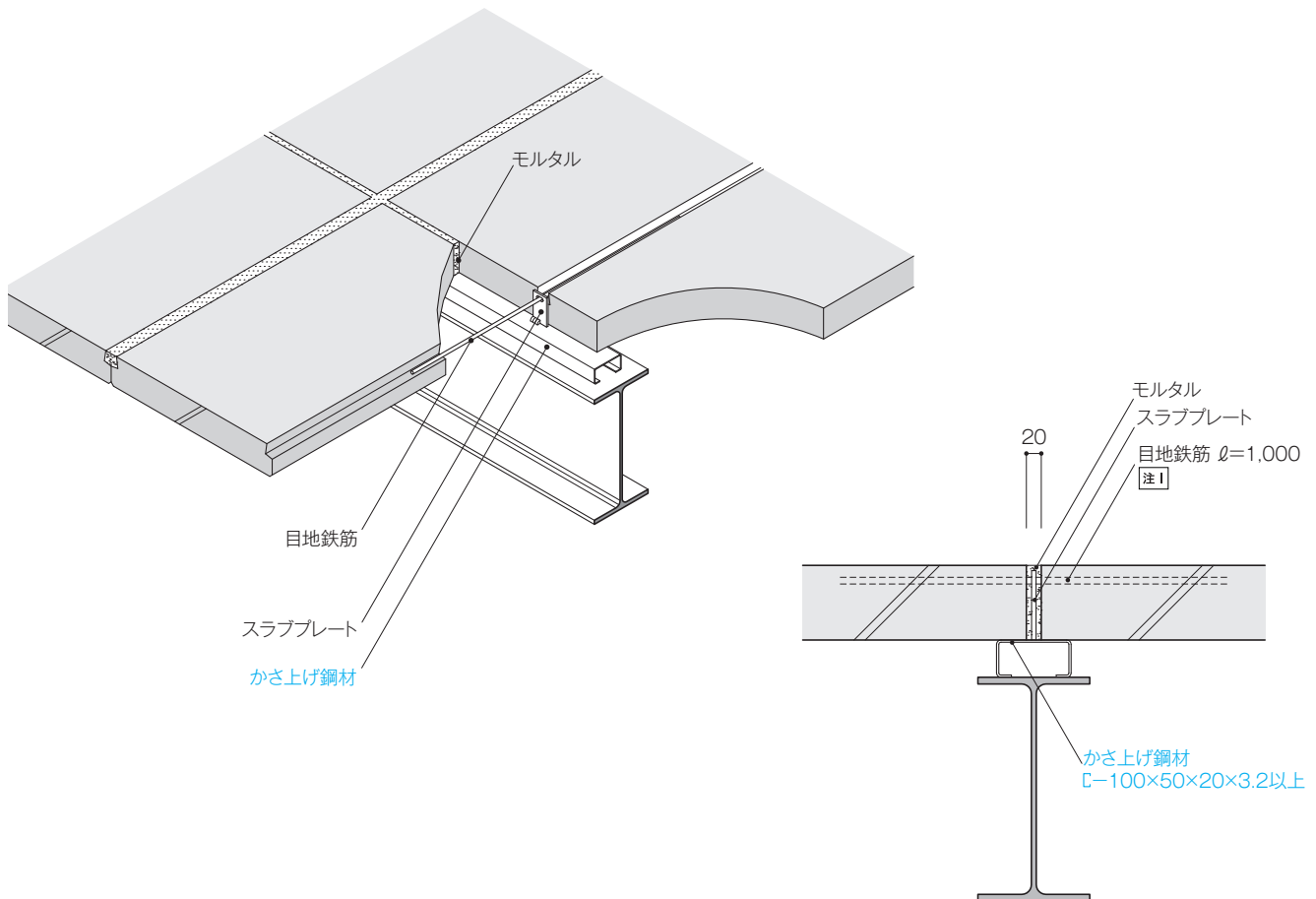
## 敷設筋構法の注

- 注1 目地鉄筋：目地鉄筋は9φまたはD10とする。
- 注2 50mm以上突き出すかフックを設ける。
- 注3 絶縁材：外壁の動きを考慮する場合必要。
- 注4 屋根の周辺部でスラブプレートが用いられない場合はマルカンを用いる。
- 注5 耐火目地材：耐火構造・断熱など必要な場合は、指定された耐火目地材を充てる。

一般部 / A 部 (小梁)

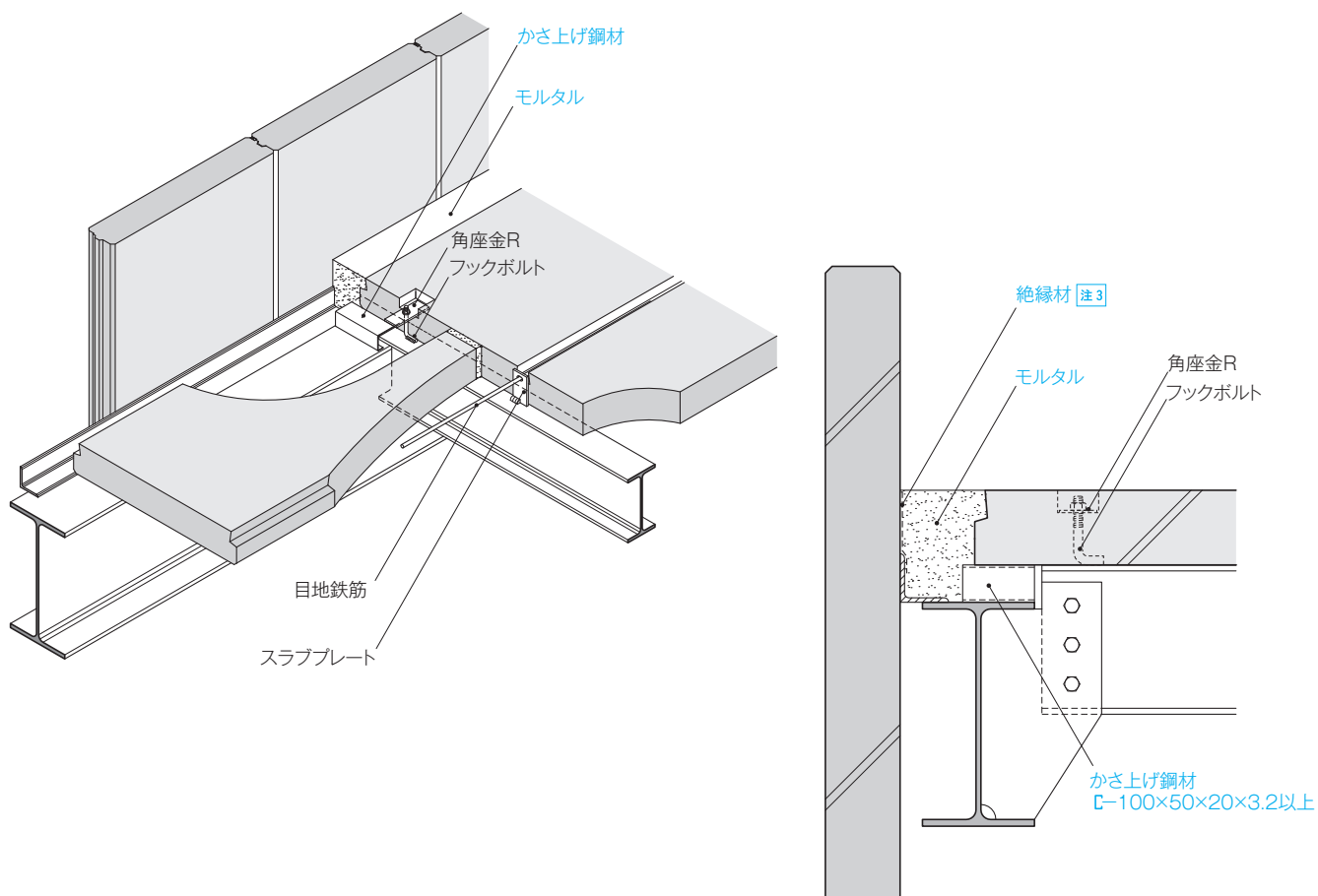


一般部 / B 部 (大梁)

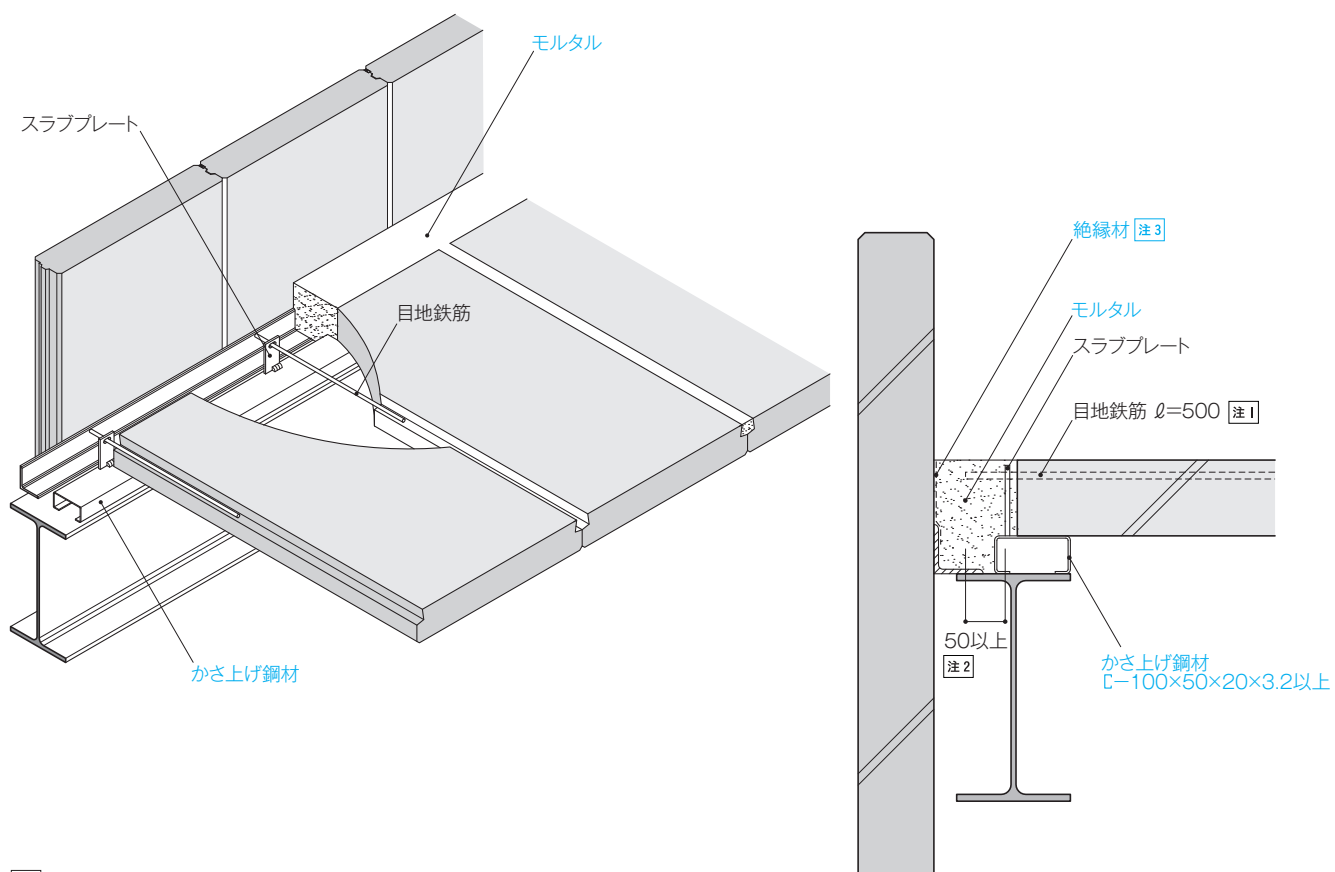


注1 目地鉄筋：目地鉄筋は9φまたはD10とする。

周辺部／C部（角座金仕様）



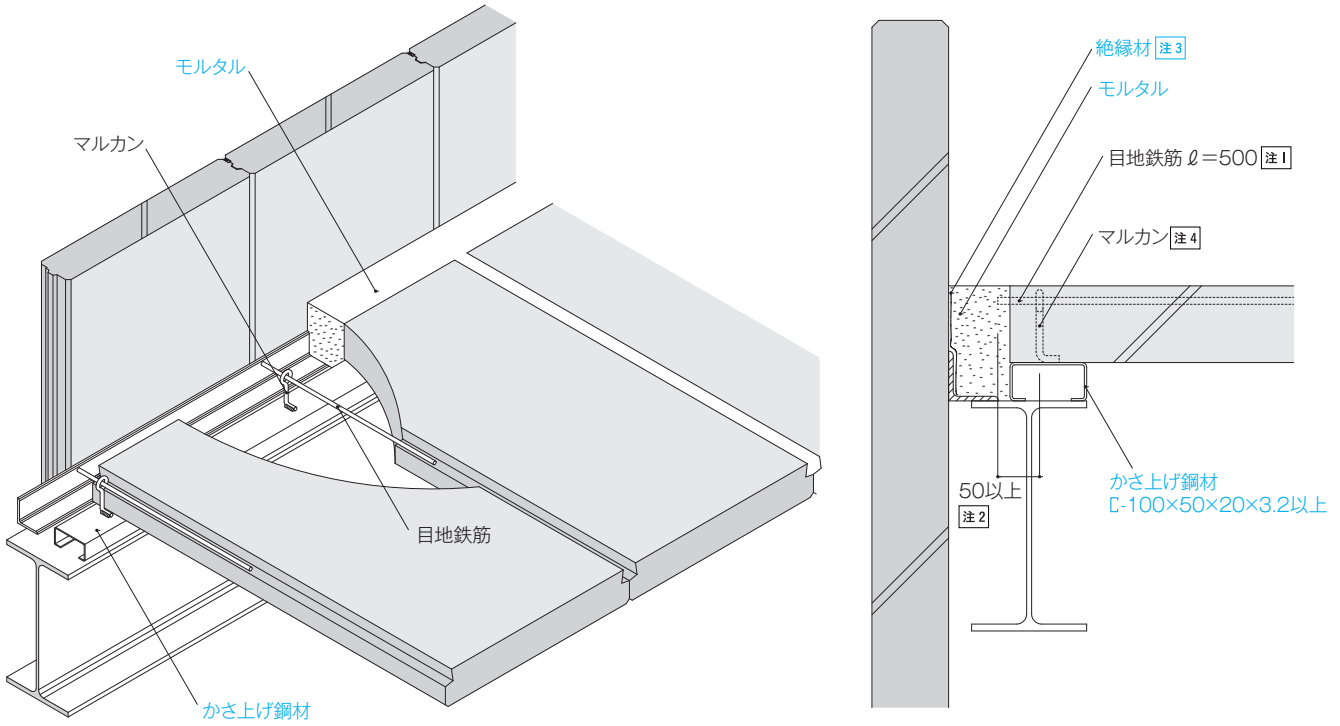
周辺部／D部（スラブレート仕様）



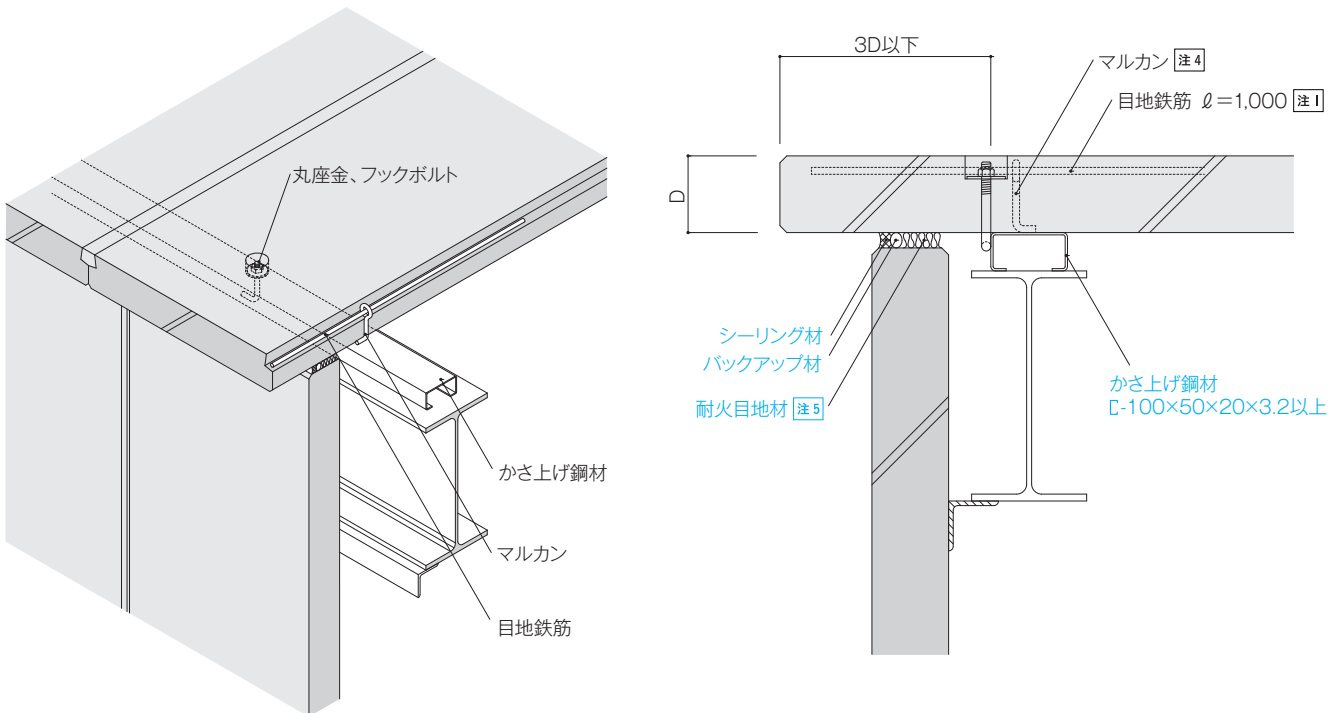
注2 50mm以上突き出すかフックを設ける。

注3 絶縁材：外壁の動きを考慮する場合必要。

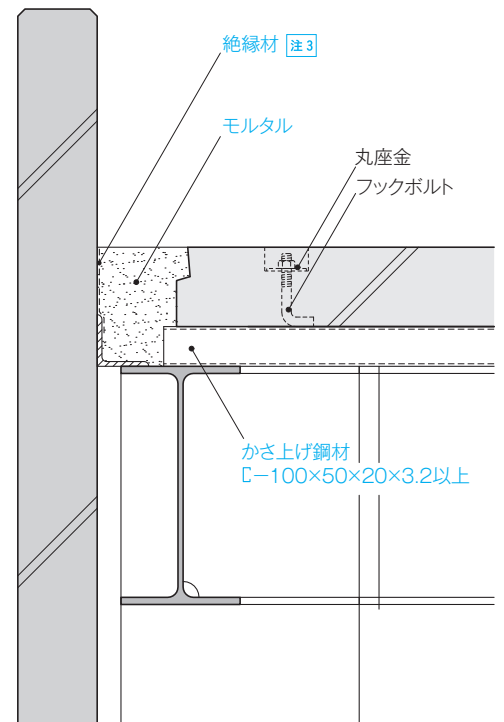
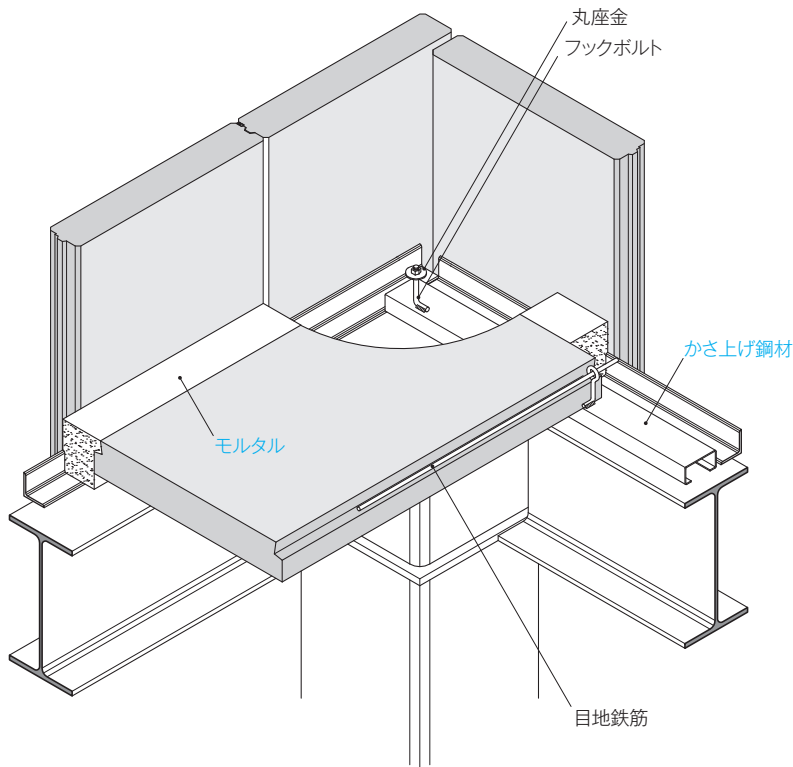
周辺部／E部（マルカン仕様）



軒部／F部



※軒部のようにパネル下面からの吹き上げ荷重が作用する場合は、丸座金とフックボルトを併用するなどの対策が必要な場合があります。



【注1】 目地鉄筋：目地鉄筋は9φまたはD10とする。

【注2】 50mm以上突き出すかフックを設ける。

【注3】 絶縁材：外壁の動きを考慮する場合必要。

【注4】 屋根の周辺部でスラブプレートが用いられない場合はマルカンを用いる。

【注5】 耐火目地材：耐火構造・断熱など必要な場合は、指定された耐火目地材を充てる。